

令和3年度交通安全講話

【令和3年4月19日（月）】

1、2年生の生徒を対象に、一般社団法人日本自動車連盟岐阜支部より大嶽悟様を講師としてお迎えし、交通安全講話「ドライバー（自動車）からの見え方を踏まえた自転車・歩行者の交通安全」を実施しました。講話では、県内の交通事故の状況、ドライバーからの見え方を理解した上での安全運転などを、スライドを使ってわかりやすく説明していただきました。特に自動車には「ピラー」によって死角があるので、「見えているだろう」ではなく、アイコンタクトをとることが大切であることを教えていただきました。また、安全運転の話聞く中で、自転車が軽車両であること、道路標識を守ることなどを再確認することができました。どの生徒も身近に感じる話題であり、交通安全に対する意識を高めることができました。以下、生徒の感想です。

- ・現在の岐阜県での交通事故の実態（高校生が3割近く）を知ることができた。
- ・登下校で交差点を通ることが多いので、周りの車や人に注意したい。
- ・自動車には「ピラー」によって死角があること、事故は出会い頭に多いことを知り、今まで以上に気をつけたいと思った。車だけでなく、歩行者にも気をつけたい。
- ・スライドが見やすかった。スライドを見て、死角にかなりたくさんの方がいて驚いた。
- ・気をつけていても事故は起こることがある。自転車は加害者にもなることを知った。
- ・自転車は軽車両なので、車と同じ交通ルールを守らなくてはならないことを再認識できた。自転車事故の大半が交差点での事故なので、ゆっくり渡りたい。
- ・車側から見ると死角があり、見えないところが多いことに驚いた。「見えているだろう」と思わず、運転手の方とアイコンタクトをとって、安全運転を心がけたい。
- ・交差点の侵入の仕方や曲がり方に気をつけることで、事故が減ることがわかった。
- ・左側通行だけでなく、道路標識も守らなくてはならないことがわかった。
- ・自分の身は自分で守らなければならない。大切なことはアイコンタクトだと思った。

